

【協議③】

令和 7 年度地域内フィーダー系統補助の事業評価について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 玉名市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

【玉名市の評価基準】

収支率及び利用者数

財政負担額

A: 目標達成

A: 目標達成

B: 目標の8割以上

B: 目標の1.2倍の範囲内

C: 目標の8割未満

C: 目標の1.2倍以上

令和 年 月 日

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
産交バス株式会社	(1)九州看護福祉大学経由 玉名駅・新玉名駅線	公共交通マップや時刻表の作成、広報等で情報提供の充実を図った。 対象事業(1)の主な利用者である九州看護福祉大学および補助対象事業者と定期的に意見交換を実施し、必要な変更を行った。 また、対象事業(2)の利用促進を図るためにR7.5.31に「玉名市街地循環線バス無料の日」を実施した。あわせて、若年層の利用促進のため主に小学生を対象とした乗り方教室を実施した。	A 事業は計画通り適切に実施された。 ※災害(大雨)により1日間(8/11)事業を実施できなかった。	C 【収支率】評価C 目標39.1%に対し、27.9%であった。 【財政負担額】評価C 目標865千円に対し、1,183千円であった。 運行に要する経費(人件費や燃料費等)が増加している。 【利用者数】評価B 目標20,033人に対し、16,838人であった。 九州看護福祉大学への通学者において、自家用車での通学が増えていると考えられる。今後については、玉名駅前のバス乗り場の変更・整備を関連部局と協議を進めるとともに、事業者や大学とも情報共有を図っていく。	利用者のニーズや利用実態をもとに、通勤・通学に利用しやすい運行時間帯への見直しや住民等への周知などを検討する。 また、無料の日や乗り方教室などのイベントを開催し、公共交通に乗りきつかけ作りを行う。 公共交通マップや時刻表を作成し、分かりやすい情報提供を行う。 既存の公共交通との利用促進を図れるよう、乗継券の配布を検討する。
	(2)玉名市街地循環線		A 事業は計画通り適切に実施された。 ※災害(大雨)により1日間(8/11)事業を実施できなかった。	B 【収支率】評価B 目標19.8%に対し、18.1%であった。 【財政負担額】評価B 目標13,714千円に対し、14,963千円であった。 運行に要する経費(人件費や燃料費等)が増加している。 また、県補助金が対象外となったことにより、昨年度よりも負担額が増額している。 【利用者数】評価B 目標34,190人に対し、33,821人であった。 R6年10月より土日の運行する便が1便減便となっている。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	玉名市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は、熊本県北西部に位置する面積約152km²、人口約63,000人の国・県の出先機関、事業所の支店等が集まる県北地域の中心的な都市である。</p> <p>市には、鉄道、路線バス等が運行し、市民の日常生活における不可欠な移動手段として広く利用され、本格的な超高齢社会への対応から、その役割がますます重要になっているところである。</p> <p>一方で、運行する路線バスは、長期にわたる利用者の減少傾向と運行維持のために必要な行政負担の増加が課題となっている。</p> <p>このような中、平成24年度に「玉名市地域公共交通総合連携計画」を策定し、当該計画の方針の一つ「バス路線の運行の効率化」に基づき市内を運行する2路線への補助を廃止し、平成25年10月から、当該沿線地域である「滑石・岱明地域」及び「大浜・横島地域」に予約制乗合タクシーの運行を開始したところである。</p> <p>また、平成28年10月からは、方針「バス路線の運行の効率化」及び「公共交通不便地域の解消」に基づき市中心部の一定の需要が見込める地域にJR玉名駅を起終点とする「玉名市街地循環線」を運行しているところである。</p> <p>令和6年3月には「玉名市地域公共交通計画」を策定し、「誰もが利用しやすく、快適に移動ができる地域公共交通ネットワークの維持・形成」を基本理念とし、利便性の向上と効率的な運行を目指していく。</p> <p>その中でも、幹線と連携した支線的な公共交通の継続的運行を確保し維持していくことが必要であると考えているが、今後の更なる高齢化の進展等を考えると、運行に係る経費を運賃収入で賄うことは困難であること、また、市単独での運行も厳しい状況であることから地域公共交通確保維持事業を活用し、財政負担の軽減を図ることで持続可能な公共交通サービスの提供を進めているところである。</p>

【参考 ⑤目標・効果達成状況】

	路線名	R7目標 (R6.10～R7.9)	R7実績 (R6.10～R7.9)	R7目標・実績の差 実績－目標	R6実績 (R5.10～R6.9)	R6・7実績の差 R7－R6	R1実績(コロナ前) H30.10～R1.9	R7・1の実績の差 R7－R1	評価基準	評価
収支率 (%)	(1)路線バス「九州看護福祉大学 経由玉名駅・新玉名駅線」	39.1	27.9	-11.2	29.2	-1.3	41.7	-13.8	31.28	C
	(2)路線バス「玉名市街地循環 線」	19.8	18.1	-1.7	19.5	-1.4	21.3	-3.2	15.84	B
財政負担額 (千円)	(1)路線バス「九州看護福祉大学 経由玉名駅・新玉名駅線」	865	1,183	318.0	896	287.0	659	524.0	1,038	C
	(2)路線バス「玉名市街地循環 線」	13,714	14,963	1,249.0	4,945	10,018.0	11,305	3,658.0	16,457	B
利用者数 (人)	(1)路線バス「九州看護福祉大学 経由玉名駅・新玉名駅線」	20,033	16,838	-3,195	15,833	1,005	25,900	-9,062	16,026	B
	(2)路線バス「玉名市街地循環 線」	34,190	33,821	-369	34,348	-527	38,067	-4,246	27,352	B

【玉名市の評価基準】

収支率及び利用者数	財政負担額
A：目標達成	A：目標達成
B：目標の8割以上	B：目標の1.2倍の範囲内
C：目標の8割未満	C：目標の1.2倍以上